

[幾代会 4月 植物観察会]

～春の宮ノ森と柚木の里語りマップを歩く！～

日時: 4月6日 (日) 9:45～13:45

参加者: 16名 梅田、越前、太田、岡、須崎、平、中部、土方、深川、
櫻井、宮野、川田 (ゲスト)、北沢 (ゲスト)、
伊野佳代子 (ゲスト)、佐藤幸美 (ゲスト)、野崎 (ゲスト)、
(計16名)



1. 柚木苑地で見られる樹木や植物の観察

ケヤキ、ユズリハ、メグスリノキ、ハンカチノキ、チャンチン、シユロ、ロウバイ
モチノキ、サカキ、マンリョウ、レンゲショウマ、ヒトリシズカ、ムラサキケマン
ホトケノザ、ムラサキハナナ、ヤエムグラ、ノキシノブ、タンチョウソウ、ニリンソウ
ヒメオドリコソウ、クリスマスローズ、他

• チャンチン (別名 ライデンボク)



中国を原産とするセンダン科の落葉樹。春先に見られるカラフルな新芽を観賞または食用とするため庭木として利用される。木全体に特有な香りがあり、枝を折ると独特の匂いがするが中国では若芽を食用とする。

新芽の匂いをかいでのみましたが、にんにくのような中華料理の香りでした。

2. 忠堂院と御岳神社

ヒロハノアマナ、レンゲショウマ、ヤマエンゴサク、ハンカチノキ



草丈15～20cm
の多年草。
アマナによく似
ているが、葉は
長さ、幅が広く
中央に白色の線
がある。

ヒロハノアマナ



山地の樹林地に
生える多年草。
本州、四国、九
州に分布。

ヤマエンゴサク

3.柚木の里語りと春のわらべうた（昼食）

昼食後は、秩父小鹿野を中心に活動中の劇団にんぎょう畠の川田ひかりさんのわらべ歌で澄んだ優しい歌声に場が丸く和みました。

小川秋子さんの著書 「柚木の里がたり」より

「腹立ち地蔵」他、3作品を読ませていただきました。

最後に柚木苑地でも観察した「ユズリハの木」にちなんだユズリハの詩を幾代会代表 越前さんよりご紹介。すばらしい詩に胸が熱くなり、聴かせていただきました。

「ゆずり葉」の詩（河井醉）

子供たちよ。/これはゆずり葉の木です。このゆずり葉は／新しい葉が出来ると/入り代わってふるい葉が落ちてしまうのです。

こんなに厚い葉/こんなに大きい葉でも/新しい葉が出来ると無造作に落ちる/新しい葉にいのちをゆずって一一。

子供たちよ/お前たちは何をほしがらないでも/すべてのものがお前たちにゆずられるのです。

太陽のめぐるかぎり/ずられるものは絶えません。/かがやける大都会も/そっくりお前たちがゆずり受けるのです。

読みきれないほどの書物も/みんなお前たちの手に受け取るのです。/幸福なる子供たちよ/おたちの手はまだ小さいけれどーー。

世のお父さん、お母さんたちは/何一つ持ってゆかない。/みんなお前たちにゆずってゆくためにのちあるもの、よいもの、美しいものを、1一生懸命に造っています。

今、お前たちは気が付かないけれど/ひとりでにいのちは延びる。／鳥のようにうたい、花のように笑っている間に/気が付いてきます。

そしたら子供たちよ、（もう一度ゆずり葉の木の下に立ってゆずり葉を見る時が来るでしょう。



ユズリハ

春になって若芽がのびると、古い葉は「若芽に譲る」ように散ることが和名の由来。

その様子を親が成長した子にあとを譲るのにたとえて家系が途切れることなく続く象徴とされ、めでたい正月の飾りに使われている。

東北地方南部以南の暖かい山地に生えるほか、庭木や公園樹として植えられる。

4. 宮ノ森（山の再生作業の経過観察）

令和5年4月に山の一部を伐採し、翌年4月より山の再生作業をスタート。少しづつ山の地拵え、土台作りを進め、令和7年より少しづつ植樹を開始予定。3月には山の祠の道が完成。

